

民有林支援・連携担当者会議を開催

〔企画調整課〕民有林との連携を一層深めた管理経営や、森林・林業の再生のための施業の集約化、新たな技術の開発と民有林への普及等について、管内の森林技術指導官と地域林政調整官等を集めた民有林支援・連携会議を 4 月 18 日から 19 日にかけて開催しました。

会議冒頭、山元次長より、地域のための国有林となること、地域関係者や民有林との連携を一層深めた管理経営を進めることなどの挨拶の後、局各課より民有林支援・連携施策の取組方針や、民有林関係者と協調した森林整備推進協定等の締結、人材育成にむけた森林技術・支援センターの取組などを説明がありました。

参加した各署（所）の森林技術指導官等より民有林関係者からの要望・相談事項の報告や、今年 1 月末に開催した中部森林技術交流発表会で発表された「木曽谷流域における民・国連携による林業再生への取組」など 3 題の発表を受け、今後、より一層取り組むべき具体的事項について確認、共通認識をもったところです。

2 日目は、林野庁整備課造林間伐対策室の中本課長補佐から「森林整備事業の概要」と題し、主に森林環境保全直接支援事業（造林補助事業）について説明を受け、長野県林務部森林政策課丸山課長補佐より、長野県が取り組む信州 F・POWER プロジェクトと林業経営基盤づくり等の推進や第 67 回全国植樹祭に向けた取組、ニホンジカ被害対策などの説明を受け、民有林施策の動向等について理解することでき有意義な会議となりました。

全体会議終了後は、特に新たな技術開発と民有林への普及について県別に打ち合わせを



会議の様子（中部森林管理局）

を行い「過去に列状間伐を実行した箇所における 2 回目の間伐」や「伐採・造林の一貫作業システムの導入」などに今後全署共通事項で取り組んでいくことなど確認をしたところです。

今後とも民有林に対する支援・連携や技術の開発・普及に向けた取組等に関係者一丸となって取り組んでいくこととしています。